

「2023年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学総合人間学部2年 横山 響

本報告書は2023年8月6日から26日の3週間にかけて香港中文大学で行われたサマースクールの内容と感想を報告するものである。

語学授業について

授業が8月8日から24日にかけて平日の午前3時間、午後3時間の合計6時間行われ、25日にテストがあった。3時間の授業には1時間ごとに2回の休憩があり、休憩時間は最初の授業で5-15分から選択できた。5分休憩を選択したが短すぎたので10分休憩をおすすめする。授業は全5課の内容で行われ、各課の2-3個のテキストの内容に則して単語やフレーズ、文章の作り方を学ぶ。午前はライティング・リーディングのクラス、午後はリスニング・スピーキングのクラスである。私は中級(intermediate)のクラスを選択した。説明は基本的には中国語で行われ、それで説明ができない部分は英語が用いられた。私の中国語学習経験は大学1年の一学期から三期にわたって中国語を履修したのみであったが、全体としてはちょうどいい難易度であったと感じている。午前の授業はやや易しく、午後の授業はやや難しいと感じたが、トータルでは身になる授業であったと思っている。各クラスのレベルは乖離がかなり激しいようであり、また8日から10日にかけての3日間に変更を申し出る場合は面接(中国語)を受ける必要があるため慎重な選択をおすすめする。語学授業を通じて中国語でコミュニケーションする楽しさを感じたことは中国語学習のモチベーションに繋がった。今後はHSKをまず受け、中国語圏への長期の留学も検討したいと考えている。

文化体験などについて

文化体験には月餅作り、焼売作り、書道、判子作りの4種類があり、私は書道以外の3つに参加した。各体験には現地の先生が招かれ、英語での説明を受けながら活動を行う。特に焼売作りで作ったエビと豚肉の焼売がとても美味しかったことが印象的であった。是非とも今後の参加者の皆さんには参加して頂きたい。

ツアーは8月7日の香港ツアー、8月19日のランタオ島ツアーの2つが行われた。香港ツアーではヴィクトリアピークやヴィクトリアハーバーを、ランタオ島ツアーでは大仏やタイオー村をそれぞれ訪問した。私は体調不良のため後者には参加できなかった。ツアーは全てバスで行われるためバス酔いのひどい私は終始顔色が悪かった。しかし、訪問する場所は香港に来たら一度は見ておく価値がある場所ばかりなので酔い止めを準備しておけばよかったと感じている。

生活などについて

渡航時のレートは1HKD=18-19JPYであったこともあり、全体的に物価が高いように感じられた。しかし、交通費はむしろ日本より安かった。宿舎は綺麗ではあるが水周り、特にシャワールームやトイレはやや汚かった。宿舎から授業のあるヤスモトインターナショナルアカデミックパークまでは徒歩で20分程度であった。学内ではバスが運行しているが山の中ということもありアップダウンやカーブがきつく、車酔いする人には耐え難い環境であったため徒歩で移動した。宿舎とヤスモトの間にはスーパーもあり、ヤスモトから徒歩3分で大学駅に着くため、生活は比較的しやすい環境であったといえる。大学駅からMTRで30分程度で中心街に行けるため、授業終わりや土日日本に日本の学生だけでなく現地や他国の学生とご飯を食べたり観光に行ったりすることができた。最初こそ慣れない地での生活でストレスが溜まったが、すぐに慣れることができた。

感じたことなど

主に政治についてである。2019年度の派遣時は民主派による大規模なデモが行われていた時期であり、報告書にもその時の熱気や混乱の様子が多く記述されている。その後2020年に香港国家安全維持法が施行されて以降サマースクールは行われていなかったため、現在の香港がどのような状況にあるのか、とりわけどのような雰囲気なのかを感じてみたいというのがひとつの目的であった。私が最初に香港の状況がいかなるものかを感じたのは香港に到着して2日目のオリエンテーションの時であった。このオリエンテーションでは香港での生活に関する注意事項が説明されたのだが、その中のスライドのひとつに国安法の説明スライドがあった。このスライドの説明をする際に、それまでにこやかにスラスラと説明を行っていた大学の職員の方が、突然暗い顔になって押し黙り、少しの沈黙の後暗い声色で説明をし始めた様子を見た時、これが自由が奪われるということかと痛感した。自由が奪われると言うとニュースで見ると警察にデモ隊や新聞社の社長が逮捕される様子が思い浮かぶが、これがリアルなのだということを初めて理解した。他にも香港の中国返還26周年を祝う横断幕がそこら中に貼られていたり、中国国旗があちこちに高々と掲げられている様子はここが香港という独立したひとつの行政区であることよりも香港が中国の一部であるということを強く意識させるものであった。正直、留学中に授業や日常会話で政治の話をするのに支障はなかったためそこまで国安法の影響を感じることはなかったが、確かにそこにあった自由や民主主義が少しずつ、しかし確実に失われていることがよくわかった。こうした経験は政治についての学習を進めるモチベーションになったほか、ニュースや授業で学んだことを実際に肌で感じる良い経験になった。